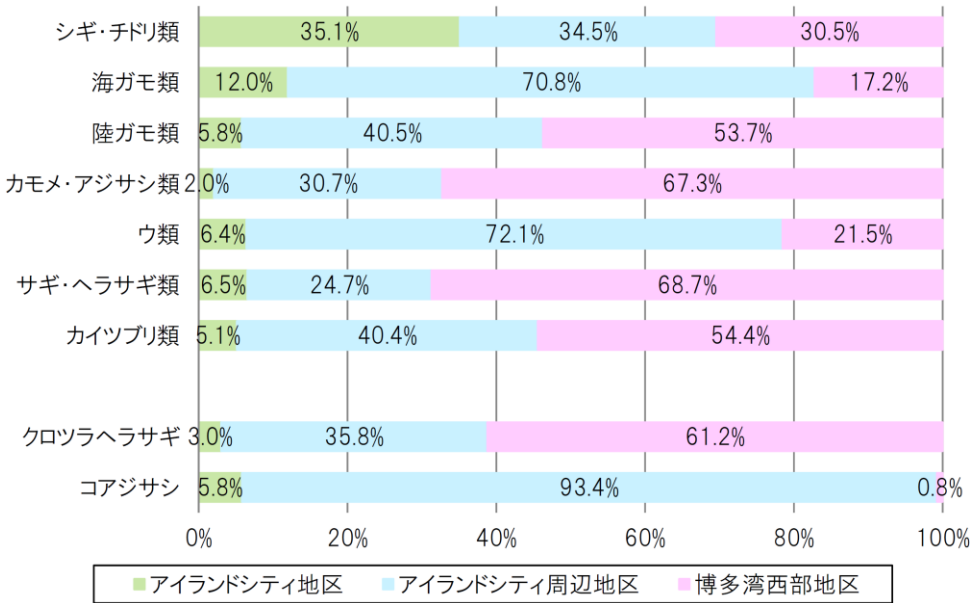
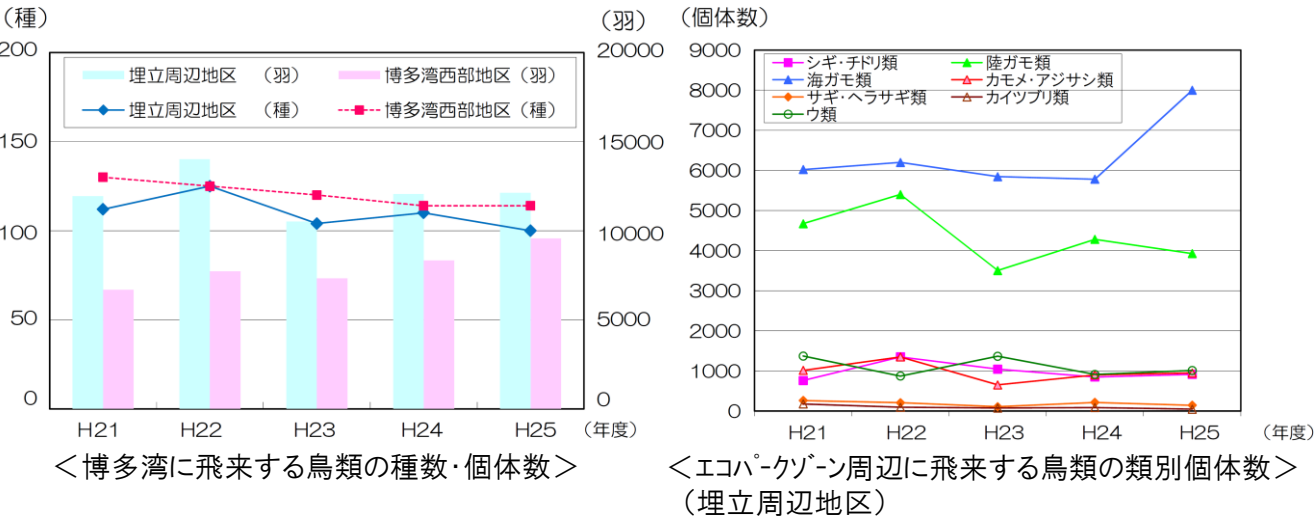
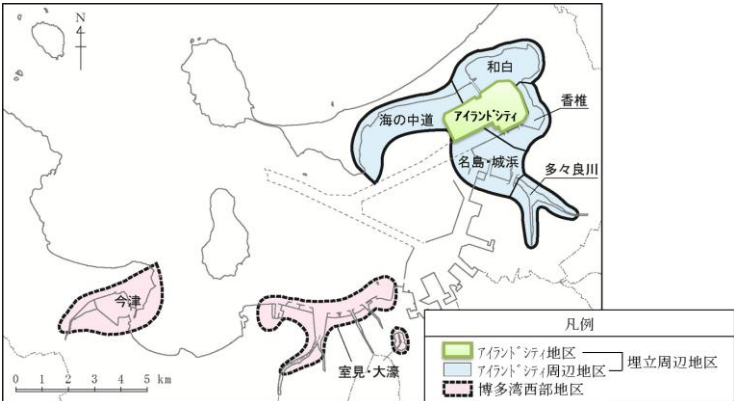


1. エコパークゾーンへの鳥類の飛来状況

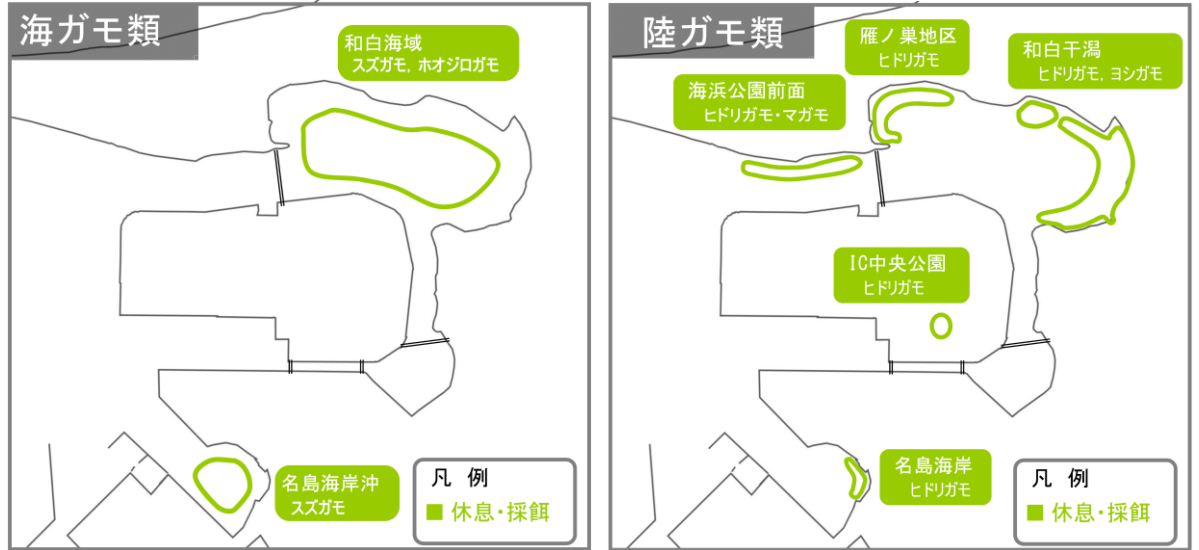
- エコパークゾーンを含む博多湾は、渡り鳥の中継地や越冬地として重要な役割を果たしている。
- 鳥類はそれぞれの特性に応じて、海域や海岸域で採餌、休息、繁殖を行うなど、エコパークゾーンを含む博多湾東部海域を一体として利用している。
- エコパークゾーン周辺への飛来数は、海ガモ類、陸ガモ類が多い。
- アイランドシティ内の利用割合が高いのはシギ・チドリ類である。



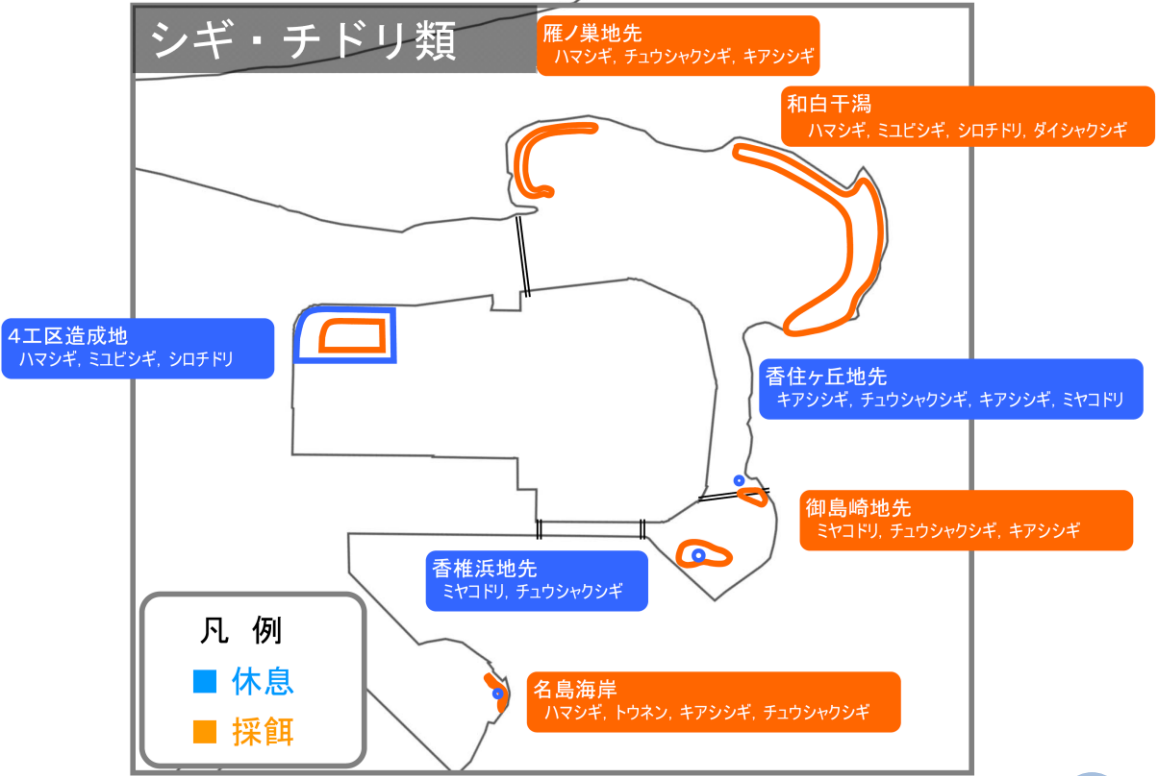
＜博多湾内の鳥類の利用割合(平成23～25年度)＞

2. 類別の鳥類利用状況

- 海ガモ類
海面の広い範囲を利用
- 陸ガモ類
和島干潟や多々良川河口などの広い範囲を利用



- シギ・チドリ類
採餌場として、和島干潟や多々良川河口などの広い範囲を利用する一方で、休息場としては香住ヶ丘や香椎浜の岩礁帯等に加えて、アイランドシティ内の工事区域を利用



＜エコパークゾーンにおける鳥類の主な利用状況(平成23～25年度)＞

3. 過去の検討経緯

(1) 福岡市野鳥公園基本構想（平成18年5月）

野鳥公園で対象とする主要な鳥類は、干潟を主要な生息地とする鳥類(主にシギ・チドリ類)、浅海域を主要な生息地とする鳥類(主にカモ類)およびこれに加え、干潟を利用する希少種とする。

(2) エコパークゾーン環境保全創造計画（平成22年3月）

アイランドシティで埋め立て工事を行う工程で生じた一時的な湿地が、工事の進捗に伴い順次消失した後の鳥類の生息に必要な機能については、エコパークゾーンを含めた周辺環境全体で担っていくことが重要であり、今後実施すべき鳥類保全対策の検討結果は以下のとおりである。

分 類	今後実施すべき鳥類保全対策
海ガモ類	海面の広い範囲を利用していることから、疑似湿地の消失による影響は小さいものと思われる。
陸ガモ類	和白干潟や多々良川河口などの広い範囲を利用していることから、疑似湿地の消失による影響は小さいものと思われる。
シギ・チドリ類	採餌場機能については、和白干潟を始めとするエコパークゾーン全体や博多湾にある干潟などで十分な餌量を確保できると考えられるが、休息場機能については不足するおそれがある。
クロツラヘラサギ	本来の生息環境である多々良川河口の干潟域や今津干潟で保全することが最適である。
コアジサシ	これまで多くの営巣が確認されている海の中道の砂浜など既存の繁殖地をしっかりと保全していくことが重要である。

4. 野鳥公園で保全すべき鳥類及び機能

- 野鳥公園の検討にあたっては、エコパークゾーンへの鳥類飛来状況、周辺 環境の現状、過去の提言などを踏まえ、和白干潟や周辺の浅海域等との機能分担やエコパークゾーン内での連携を図ることが重要



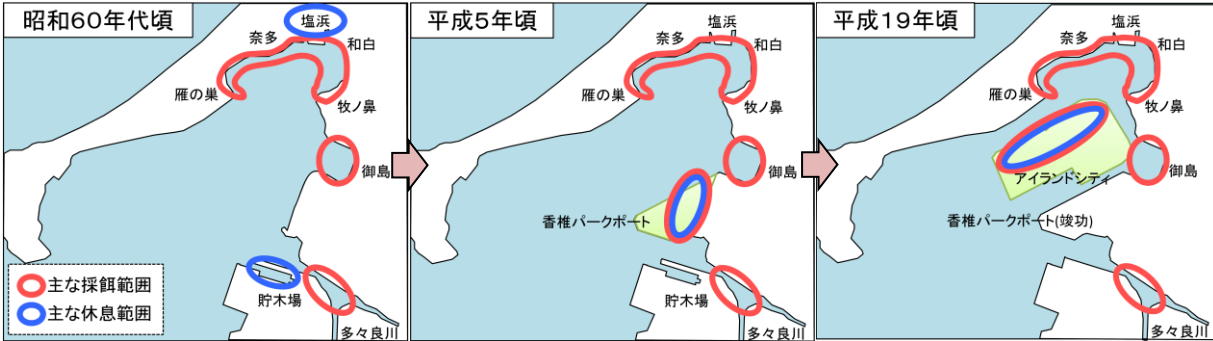
エコパークゾーンの鳥類本来の生息域を保全していくとともに、野鳥公園内では、主として今後不足するおそれがある **シギ・チドリ類の休息場** を確保

5. シギ・チドリ類の利用環境の変遷

- 採餌場となる干潟域は保全されているが、休息場は埋立工事中の裸地や畑地など、その時々
に存在する水域に近接した開放性に富む静かな場所を転々と利用してきている。

採餌 ・アイランドシティ着工前から一貫して和白干潟や多々良川河口等の干潟域を利用
・埋立工事の進捗に伴う湿地環境の出現により、香椎パークポート内、アイランドシティ
内の一部を利用

休息 ・昭和60年代は、箱崎の貯木場を主な休息場とし、塩浜の農耕地でも少数が利用
・その後、香椎パークポート内を休息場として利用
・香椎パークポートの竣工、アイランドシティ内の湿地環境の出現に伴い、アイランドシ
ティを主要な休息場として利用



6. アイランドシティを利用するシギ・チドリ類

- 平成23～25年度の3年間で計31種のシギ・チドリ類がアイランド シティ内を利用
- 利用頻度が高い種は小型種であり、希少種や淡水湿地を好む種の利用も見られる。
- 春と秋に渡ってくる旅鳥を中心に、冬鳥、夏鳥、留鳥の利用も見られる。

		サイズ	渡りの タイプ	淡水湿地 を好む種	希少種
とてもよく 利用	ハマシギ	小型	旅鳥・冬鳥	△	●
	トウネン	小型	旅鳥	△	●
	シロチドリ	小型	冬鳥・留鳥		●
	ミユビシギ	小型	旅鳥・冬鳥		●
よく利用	メダイチドリ	小型	旅鳥		
	コチドリ	小型	夏鳥	○	
	ソリハシシギ	小型	旅鳥		
	タカブシギ	小型	旅鳥	○	●
しばしば 利用	アオアシシギ	中型	旅鳥・冬鳥	△	
	ホウロクシギ	大型	旅鳥		●
	ムナグロ	小型	旅鳥	○	
	コアオアシシギ	小型	旅鳥	○	
	イソシギ	小型	留鳥	△	

淡水湿地を好む種
○：専ら淡水湿地を利用
△：淡水湿地と干潟の両方を利用

		サイズ	渡りの タイプ	淡水湿地 を好む種	希少種
時々利用	オバシギ	中型	旅鳥	△	
	チュウシャクシギ	大型	旅鳥		
	ウズラシギ	小型	旅鳥	○	●
	セイタカシギ	中型	旅鳥	○	●
	ハジロコチドリ	小型	旅鳥・冬鳥		
	ダイゼン	中型	旅鳥・冬鳥		
	ヒバリシギ	小型	旅鳥	○	
	アカアシシギ	中型	旅鳥	△	●
	オオメダイチドリ	小型	旅鳥		
	キョウジョシギ	小型	旅鳥		
まれに利用	コオバシギ	小型	旅鳥	△	
	キリアイ	小型	旅鳥	△	
	クサシギ	小型	旅鳥・冬鳥	○	
	キアシシギ	中型	旅鳥		
	オグロシギ	大型	旅鳥	△	●
	ヨーロッパトウネン	小型	旅鳥	△	
	エリマキシギ	中型	旅鳥	○	
	オオソリハシシギ	大型	旅鳥		●

＜アイランドシティ地区のシギ・チドリ類の利用状況(平成23～25年度)＞

7. これまでの休息場整備の取組み

石組み構造物

【名島海岸】

ハマシギやトウネンなどが利用



【牧の鼻地先の和白海域】

チュウシャクシギやキアシシギなどが利用



フロートによる仮設休息場

【野鳥公園予定地前面海域】

シギ・チドリ類, カモ類などが利用



8. 野鳥公園内でのシギ・チドリ類の休息場整備

整備の方針

- アイランドシティ内でのこれまでの利用状況を踏まえ、小型のシギ・チドリ類を主たる対象とした整備とする。
- 渡りの時期には、休息と採餌が同じ場所で行える方が、より好ましいため、可能な限り、休息場機能にあわせて採餌場機能も持たせることが望ましい。
- 種によって、好む環境や餌生物が多様であるため、休息場の構造等に多様性を確保する。
- 希少種や淡水湿地を好む種の利用も考慮する。
- 整備後は、順応的管理手法により対応する。

具体的な整備内容

- ◆ 陸域における湿地造成
 - ・ 小型のシギ・チドリ類の利用を考慮して、ごく浅い水際部を広く確保する。
 - ・ 湿地及び湿地周辺は見通しを確保する。
 - ・ 雨水を水源とした淡水湿地とし、湿地周辺もレキ質、砂質等多様な環境を創出する。
- ◆ 海域における石組み構造物の設置
 - ・ 大潮満潮時でも上部が干出する。
 - ・ 野鳥が飛来しやすいように、可能な限り凹凸を少なくする。
 - ・ 形状や設置位置を工夫し、採餌場機能の創出に努める。